

会 議 録

会議名		平成29年度第2回相模原市障害者自立支援協議会				
事務局 (担当課)		相模原市社会福祉事業団 障害者支援センター松が丘園 電話 042-758-2121				
開催日時		平成29年10月3日(火)午後3時~午後5時				
開催場所		相模原市民会館 3階				
出席者	委員	出席18人 欠席 4人				
	その他					
	事務局	10人 市：障害政策課 7人 社会福祉事業団：地域支援課長 他2人				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 会長挨拶 3 議 題 (1) 研修について (2) 部会報告 ア 権利擁護・虐待防止検討部会 イ 相談支援技術向上部会 ウ 相談支援事業所等連絡・調整部会 (3) 障害福祉計画等の策定について (4) 各関係団体および関係機関からの報告 4 事務連絡 ・次回開催 平成30年2月20日(火)15:00~ 障害者支援センター松が丘園 5 閉 会				

平成29年度第2回相模原市障害者自立支援協会委員名簿及び出欠状況

No	区 分	所属・職	氏 名	出欠
1	障害者等関係団体	相模原市障害福祉事業所協会 会長 (やまびこ工房 施設長)	なかじま ひろゆき 中島 博幸	出
2		相模原市障害福祉事業所協会 総務 ((福)らっく 理事長)	すずき すみえ 鈴木 純恵	出
3		相模原市障害福祉事業所協会 総務 (くりのみ学園 施設長)	いまい やすのり 今井 康雅	出
4		相模原市障害者地域作業所等連絡協議会 会長	おの あきこ 小野 明子	出
5		(福)相模原市社会福祉協議会 福祉推進課長	たどころ まさし 田所 雅	出
6		相模原福祉オンブズマンネットワーク スーパーバイズオンブズマン	わたなべ ゆきお 渡辺 幸雄	出
7		相模原市民生委員児童委員協議会 常任理事	きが じゅんじ 佐賀 淳司	欠
8	指定相談支援事業者	橋本障害者地域活動支援センター ぷらすかわせみ 施設長	なかたに まさよ 中谷 正代	出
9		子ども相談支援リボン (NPO法人ワンダートンネル理事長)	ちや ふみこ 千谷 史子	出
10	障害者等及び その家族	(特非)相模原市障害児者福祉団体連絡 協議会 副会長	はねだ ひさし 羽田 彌	欠
11		(特非)相模原市障害児者福祉団体連絡 協議会 理事	しまもり まさこ 島森 政子	欠
12		(特非)相模原市障害児者福祉団体連絡 協議会 理事	かたおか かよこ 片岡 加代子	出
13	保健・医療関係者	相模原市医療ソーシャルワーカーの会 (北里大学東病院医療ソーシャルワーカー)	だいなか たく 提中 拓	出
14	教育関係機関の職員	神奈川県立相模原中央支援学校 総括教諭	はしづめ みつこ 橋爪 美津子	出
15		教育局学校教育課担当課長	みずの まさと 水野 正人	欠
16	関係行政機関の職員	健康福祉局福祉部障害政策課長	ありもと ひでみ 有本 秀美	出
17		健康福祉局福祉部精神保健福祉センター 所長	ししくら くりえ 宍倉 久里江	出
18		健康福祉局福祉部南障害福祉相談課長	いしづか さちこ 石塚 祥子	出
19		こども・若者未来局陽光園主幹(兼)療育 相談室長(兼)発達障害支援センター所長	なかじま しげゆき 中嶋 成享	出
20		こども・若者未来局南子育て支援センタ ー所長	さくま たかこ 佐久間 貴子	出
21		こども・若者未来局児童相談所 総括副主幹	あきま ゆたか 秋間 裕	出
22	学識経験者	田園調布学園大学 教授	むらい ゆういち 村井 祐一	出

審 議 経 過

主な内容は次の通り。

1 開会

2 会長挨拶

3 議 題（ は会長、 は委員、 は部会長、 は事務局の発言）

（1）研修について

事務局より平成29年度相模原市障害者自立支援協議会研修実施要綱（案）別紙のとおり報告をした。

（意見）特になし。

（2）部会報告

ア 権利擁護・虐待防止検討部会

部会長より別紙のとおり報告をした。

（意見）

グループホーム職員向け研修について、近年グループホームが多く開所されている。新しいグループホームの職員にも研修の大切さを意識付けできるとよい。規模の小さいホームこそ、研修が必要ではないか。

成年後見人の利用は少ない現状がある。あんしんセンターの活用を検討したらどうか。緊急的な対応も必要と思う。

他自治体では、グループホームの職員が研修の場に参加することの難しさなどが課題にあがっていた。成年後見については、市民後見人等の資源を活用したらどうか。

グループホームの一角を短期入所として利用できるようにした。運営は厳しいが、長期入院を必要とする方が地域で暮らすことの大切さを重視している。

あんしんセンターでは、日常生活や金銭管理等で約120名の利用がある。近年の利用割合は精神障害者の方が高齢者を上回っている。市民後見人養成講座を実施している。

精神科病院から地域移行する際に受け皿が限られている。医療の立場からは短期入所が多くなると良い。親との関係で週1日利用ができること、体験を通じて、利用が促進されることを期待したい。

委員の方の意見を踏まえ、実態を把握していくことが必要である。身近な場所で研修を開催することも検討してはどうか。

イ 相談支援技術向上部会

部会長より別紙のとおり報告した。

(意見)

相模原福祉オンブズマンにて、「権利擁護を考える」が議論となっている。支援者が利用者の意思を閉ざすと、支援に影響があるのではないかと。意思決定支援に関しては支援者側の意識が重要な要素となる。意思決定支援のキーとなるのは相談支援専門員のため、質の向上を図り、サービス等利用計画に反映してほしい。

相談支援事業所に電話相談をすると、時間の制約がある。特定の方が頻繁に相談するため、電話が繋がらないことがあると聞いた。

障害によっては話が堂々巡りとなり、時間をかけることが本人にとっても得策ではないと判断することもある。相談支援専門員が通所等の業務と兼務のことが多く、専任ではないため、すべてに対応できない現状がある。

愚行権との表記は不適切ではないか。本人にとっては愚行ではないのではないかと。

部会で表記については検討する。

ウ 相談支援事業所等連絡・調整部会

部会長より別紙のとおり報告した。

(意見)

地域課題については、課題を行政に伝えつつ、協力しながら地域で助け合いができるとうい。課題解決自体が難しい課題であることも共通認識をもつことが大事である。

(3) 障害福祉計画等の策定について

障害政策課より「共にささえあい生きる社会さがみはら障害者プラン」について説明。

(意見交換)

「医療的ケア児に対する関連分野の支援を調整するコーディネーターの配置人数」について、どのように配置を進めていくのか。

国の指針において、新たに活動指標として定められた。配置方法などは、関係者等から意見を伺いながら、検討していく予定である。

パブリックコメントの実施時期を伺いたい。

12月中旬から1か月程度を予定している。

精神障害者地域移行・地域定着推進協議会は、津久井やまゆり園の事件を受け、措置入院者への対応を検討するような会議のことか。

措置入院者の支援とは別のものである。

障害者手帳を持っていない方にも支援の視点を向けてほしい。計画に関しては、

高齢、障害、地域福祉等分野毎に策定している。行政間で摺合せが必要ではないか。

各計画に係る機関等が相互に確認を行いながら、計画策定に向けた検討を行っている。

(4) 各関係団体および関係機関からの報告

- ・重症心身障害児者ネットワーク実施要綱別紙に基づき、報告した。
- ・「アッセンブレア in 相模原」の周知。
- ・「さがみはらバリアフリーフェスティバル」の周知

4 事務連絡

- ・次回開催 平成30年2月20日(火) 15:00～
障害者支援センター松が丘園

5 閉会